

第1章 目指す子どもの姿

- 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方
- 2 基本目標の達成状況

1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

「輝く よっかいちの子ども」実現に向けて

子どもたちが将来生きていく社会は、多様で変化が激しく一層複雑化し、解決の道筋が明らかでない問題が多く存在すると予想されます。そのため、子ども自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに、他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力としての「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成が必要です。

また、教育活動全体を通して、子ども一人一人の実態や課題を踏まえ、豊かな人間性と感性を培うこと、さらに仲間づくりを進めるなかで、集団の中での協調性や他者を思いやる心を育むこと、個々の自主性・自立性を育てること、人権尊重の意識を醸成することが大切です。

本市では、「四日市市教育大綱」を定めるとともに、本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第3次四日市市学校教育ビジョン」を策定し、「社会人になっても通用する問題解決能力」を身に付け、学校での学びを自分自身の人生の充実・幸せや将来の社会貢献につなげていく「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指しています。

○四日市市教育大綱 ～5つの理念～

- 1 社会人になっても通用する問題解決能力の養成
- 2 豊かな人間性と健やかな体の育成
- 3 夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養
- 4 家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現
- 5 都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進



○第3次四日市市学校教育ビジョン ～6つの基本目標～

- 「子どもにつけたい力」
- 基本目標1. 確かな学力の定着
 - 基本目標2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成
 - 基本目標3. 健康・体力の向上
- 「子どもを支える学校づくり」
- 基本目標4. 学校教育力の向上
 - 基本目標5. 地域とともにある学校づくり



四日市市の教育理念を実現するための基本的な考え方

目指す子どもの姿

輝く よっかいちの子ども

生きる力

子どもたちが、夢や志を持ち、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら、自立した人間としてたくましく生き抜くための力

共に生きる力

多様性を尊重する心や豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力などを身に付け、他者と協働し、共に未来を切り開いていく力

社会人になっても通用する問題解決能力

自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力

確かな学力

- ▶ 基礎的・基本的な知識及び技能
- ▶ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- ▶ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

豊かな人間性とコミュニケーション能力

- ▶ 自律的に活動する力、規範意識
- ▶ 豊かな感性、優しさ、思いやり
- ▶ 多様性を尊重し、他者と協働しながら創造的に生きる態度
- ▶ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ
- ▶ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

健康・体力

- ▶ 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力
- ▶ 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣
- ▶ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

学校教育力の向上

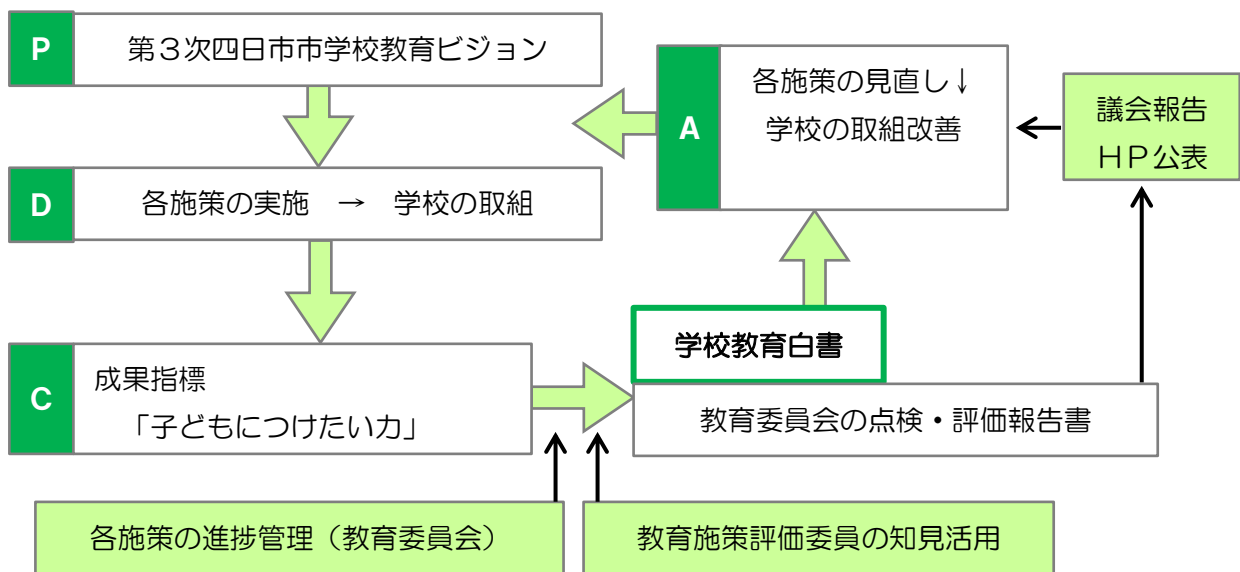
地域とともにある学校づくり

四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

3 ビジョンの進捗管理と評価

本市では、目指す子どもの姿の実現のため、特に「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づく評価を実施しています。

また、基本目標の各教育施策については、具体的な取り組み指標に基づき、取り組みの進捗管理及び評価をしています。



本白書は、子どもたちの今のすがたや学校の取り組みの現状、今後のあるべき姿を表すとともに、教育委員会の点検・評価報告書の役割も担っています。

2 基本目標の達成状況

第3次学校教育ビジョンの「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づいた評価を実施します。

(1) 「基本目標1. 確かな学力の定着」の達成状況

① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着

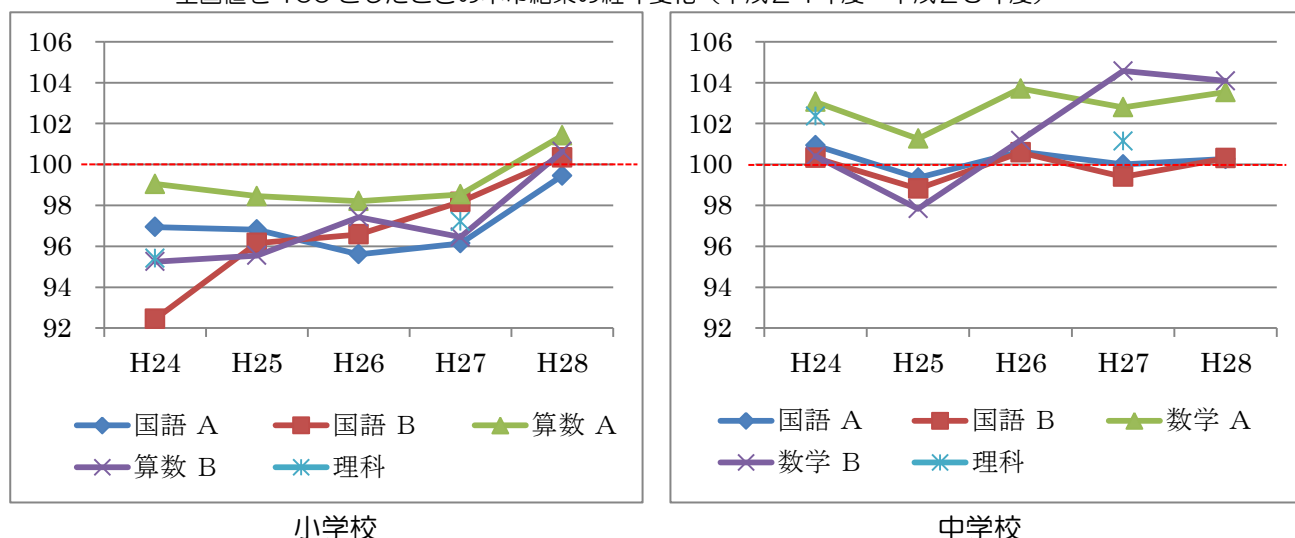
成果指標		現状値*	H28	H29	H30	H31	H31	目標
①	全国学力・学習状況調査結果 (小6・国A 国B 算A 算B) (中3・国語 国B 数A 数B) 全国平均値を100としたときの全科目 の市平均値	小	97.4	100.5				102
	中	101.3	102.0				105	

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

基礎的・基本的な知識及び技能の定着については、全国学力・学習状況調査結果における全国平均値を100としたときの全科目の市平均値を成果指標とし、小学校102、中学校105を目標値としています。

平成28年度は、特に小学校において大きな伸びが見られました。教科別の数値においても、小学校の国語A以外の教科については、初めて全国平均正答率を上回りました。一方、中学校では、すべての教科で全国平均正答率を上回っています。特に、数学A・Bともに、全国平均正答率より約2ポイント高くなっています。

全国値を100としたときの本市結果の経年変化（平成24年度～平成28年度）



経年変化においても、この5年間で、年々、全国平均正答率との差が縮まってきました。平成21年度から取り組みを進めてきた「学力向上4つの取り組み」（P16参照）による成果が徐々に表れ、基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られていると言えます。

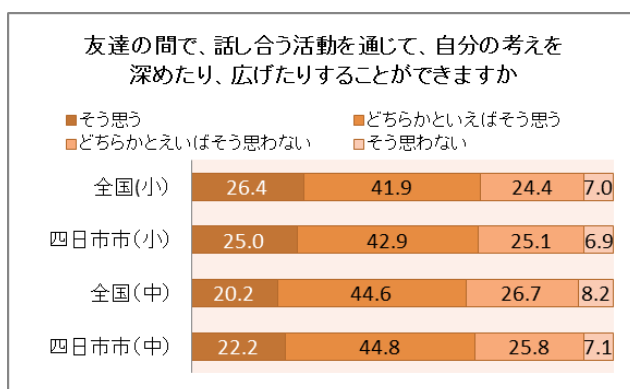
② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

成果指標			現況値(※)	H28	H29	H30	H31	H31	目標
②	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	632 (全国669)	67.9 (68.3)					80
		中	65.6 (全国62.9)	67.0 (64.8)					80

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成においては、全国学力・学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも80%を目標値に設定しています。

平成28年度は、特に小学校において大きな伸びが見られました。

これらの結果は、全市的に、児童生徒が言語活動を通じて思考を深め、広げることができるような授業を推進してきた成果であると考えられます。



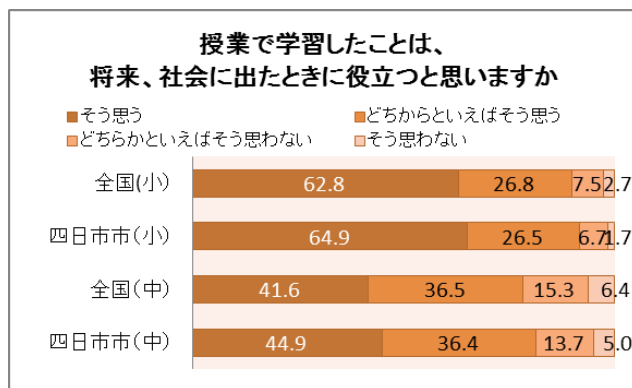
③ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

成果指標			現況値(※)	H28	H29	H30	H31	H31	目標
③	「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	89.5 (全国89.5)	91.4 (89.6)					95
		中	79.3 (全国78.4)	81.3 (78.1)					85

全国学力・学習状況調査の質問項目「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校85%を目標値に設定しています。

平成28年度は、小・中学校とも上昇し、全国平均値も上回っています。

本市では地域資源を生かしたふるさと四日市にふさわしい学びを大切にしています。地域資源を活用し、「何のために学ぶのか」といった目的意識を持たせる授業の推進によって、今学んでいることが自分の将来や社会とどのようにつながっているのかを感じとる子どもが増えていると言えます。



(2)「基本目標2 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成」の達成状況

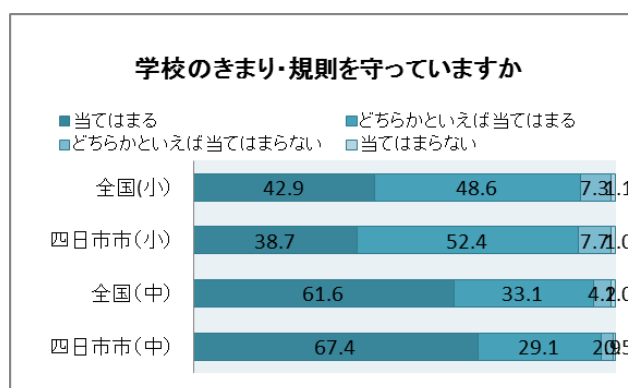
① 自律的に活動する力、規範意識

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	H31	H31	目標
①	「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	91.1 (全国91.1)	91.1 (91.5)					95
		中	95.3 (全国94.4)	96.5 (94.7)					97

※現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査質問項目「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校 95%、中学校 97%を目標値に設定しています。

平成 28 年度は、小学校において全国平均値をやや下回り、中学校においてやや上回っています。小学校では規範意識を示す値が全国より低いものの、中学校では全国を上回る傾向が毎年続いており、小学校において日々の学校生活においてルールを守ることの大切さを伝えていく指導をさらに推進していく必要があります。



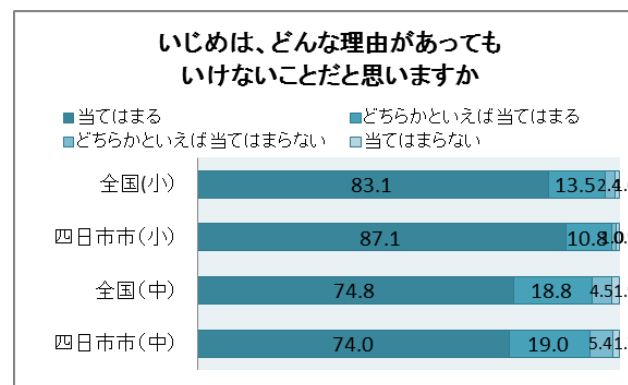
② 豊かな感性、優しさ、思いやり、多様性を尊重し他者と協働しながら創造的に生きる態度

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	H31	H31	目標
②	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	96.5 (全国96.2)	97.9 (96.6)					100
		中	93.3 (全国93.7)	93.0 (93.6)					100

※現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも 100%を目標値に設定しています。

平成 28 年度は、全国平均値と比較すると、小学校で 1.1 ポイント上回り、中学校で 0.6 ポイント下回りました。



中学校では、昨年度を下回ることから、いじめは絶対に許されないことを児童・生徒全員が理解し、学校生活の中で実践できるよう、今後も粘り強く指導していく必要があります。

③ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ

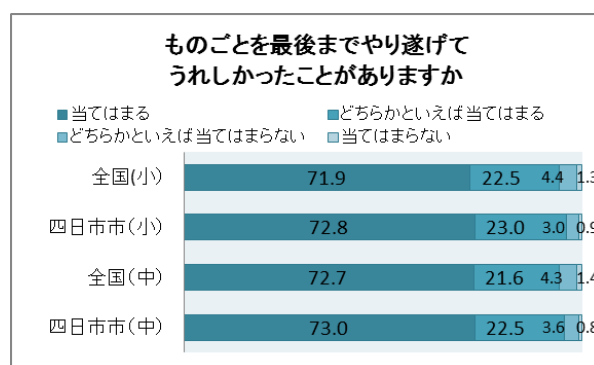
成果指標			現況値*	H28	H29	H30	H31	H31	目標
③	「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合 (%)	小	95.0 (全国94.5)	95.8 (94.4)					100
		中	94.2 (全国94.2)	95.5 (94.3)					100

※ 現況値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国学力・学習状況調査の質問項目「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも100%を目標値に設定しています。

平成28年度は、小・中学校とも昨年度値及び全国平均値を上回っています。

達成感を得られるような教育活動の機会をおおむね作ることができていると考えられますが、当てはまらないと答えた約4%の児童生徒について、その原因の分析と、具体的な教育活動の改善を進め、主体的に学習に取り組む姿勢を養っていくことが大切です。



④ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

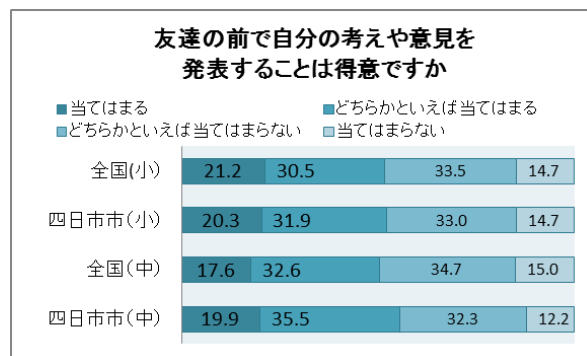
成果指標			現況値*	H28	H29	H30	H31	H31	目標
④	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合 (%)	小	51.0 (全国51.2)	52.2 (51.7)					60
		中	55.2 (全国49.6)	55.4 (50.2)					60

※ 現況値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国学力・学習状況調査の質問項目「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校ともに60%を目標値に設定しています。

平成28年度は、中学校で昨年度をやや上回るともに、小・中学校とも全国平均値を上回っていますが、目標値の60%には、到達していません。

本市では読書後や体験活動後の1分間コメント、弁論大会などの機会を設けて、児童生徒が自分の考えや意見を発表する場を増やしており、引き続き児童生徒のコミュニケーション能力を育成するさまざまな取り組みを進めていきます。



(3)「基本目標3 健康・体力の向上」の達成状況

① 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力

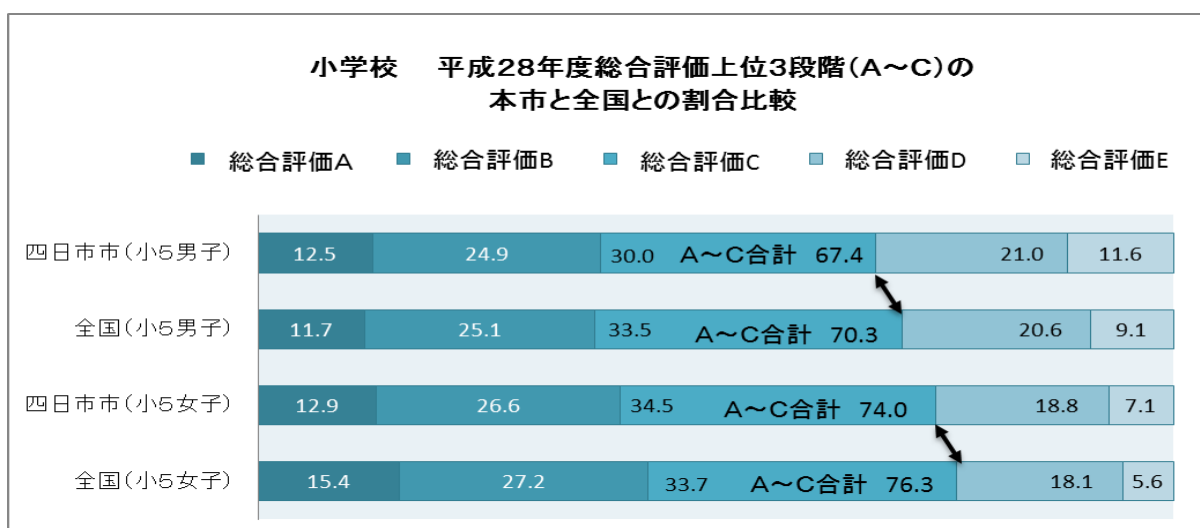
成果指標			現状値 [※]	H28	H29	H30	H31	H31	目標
①	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒の総合評価(A～Eの5段階)で3段階以上(A～C)の児童生徒の割合(%)	小	男子669 (全国70.1)	67.4 (70.3)					75
			女子702 (全国75.1)	74.0 (76.3)					75
		中	男子742 (全国71.1)	72.7 (71.8)					75
			女子855 (全国86.6)	89.8 (87.5)					90

※現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童生徒の総合評価(A～Eの5段階)で3段階以上(A～C)の児童生徒の割合を指標とし、小学校及び中学校男子において75%を、中学校女子において90%を目標値に設定しています。

○小学校の状況

平成28年度は、小学校男子でA～Cの児童の割合が67.4%(全国比マイナス2.9ポイント)、小学校女子では74.0%(全国比マイナス2.3ポイント)となり、特に小学校男子は目標値75%を大きく下回っています。



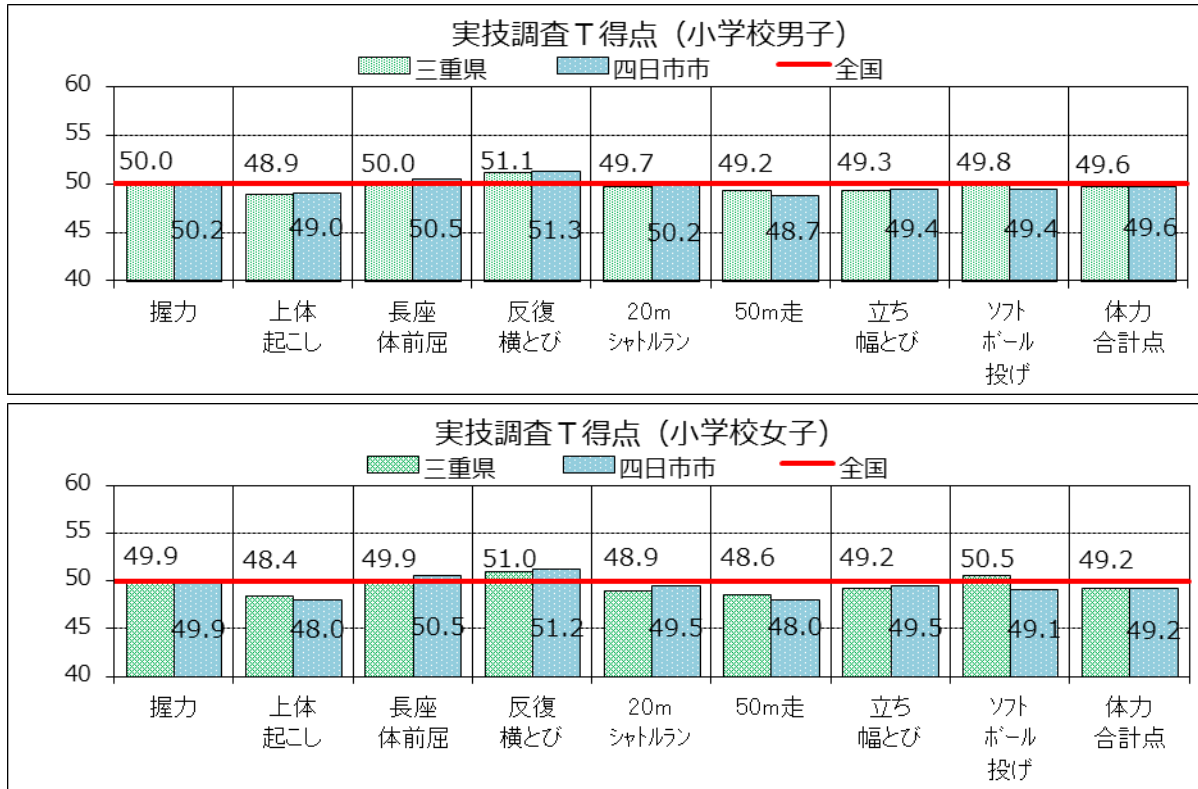
種目別に見ると、男女ともに、苦手としている種目が一致しており、特に上体起こしや50m走、立ち幅とびは全国平均値との開きがあります。

握力は全国平均値と同程度ですが、ソフトボール投げを含めた走・跳・投のいずれの分野においても全国平均値を下回っています。

これらの能力を伸ばすために、体幹や筋持久力を養う運動を授業に取り入れたり、普段の授業で

第1章 目指す子どもの姿
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

座った姿勢を維持させるような指導をしたりするなど、体育の授業をはじめ様々な機会を活用することが必要です。また、両足で踏み切り、体を反らすといった動きに慣れさせること、「跳びはねる」「跳び越す」などの要素を取り入れた遊びの機会を確保することも必要です。

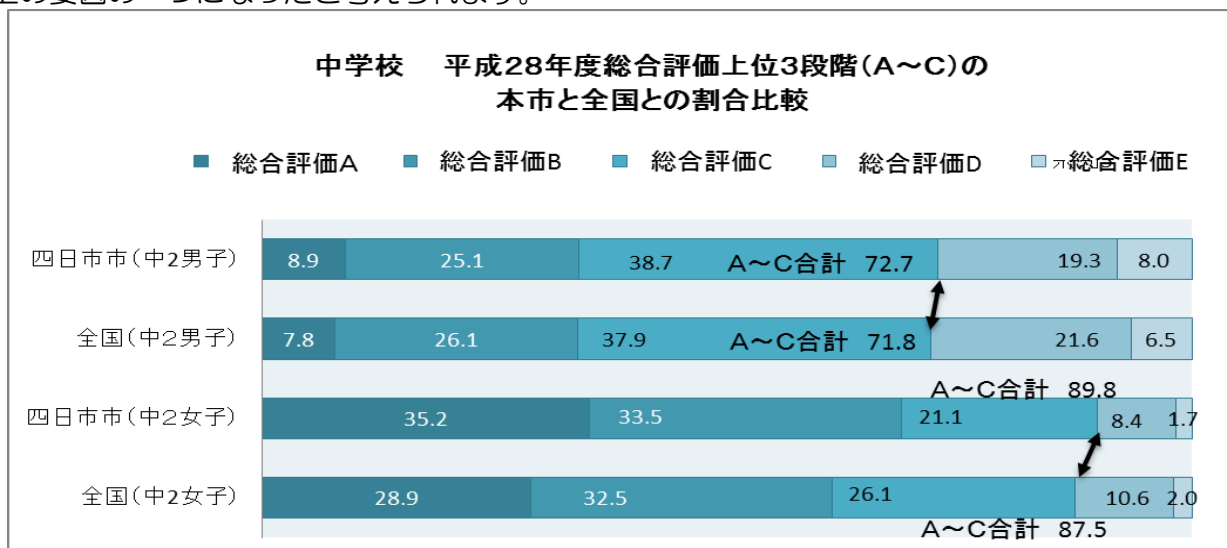


小学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較
※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

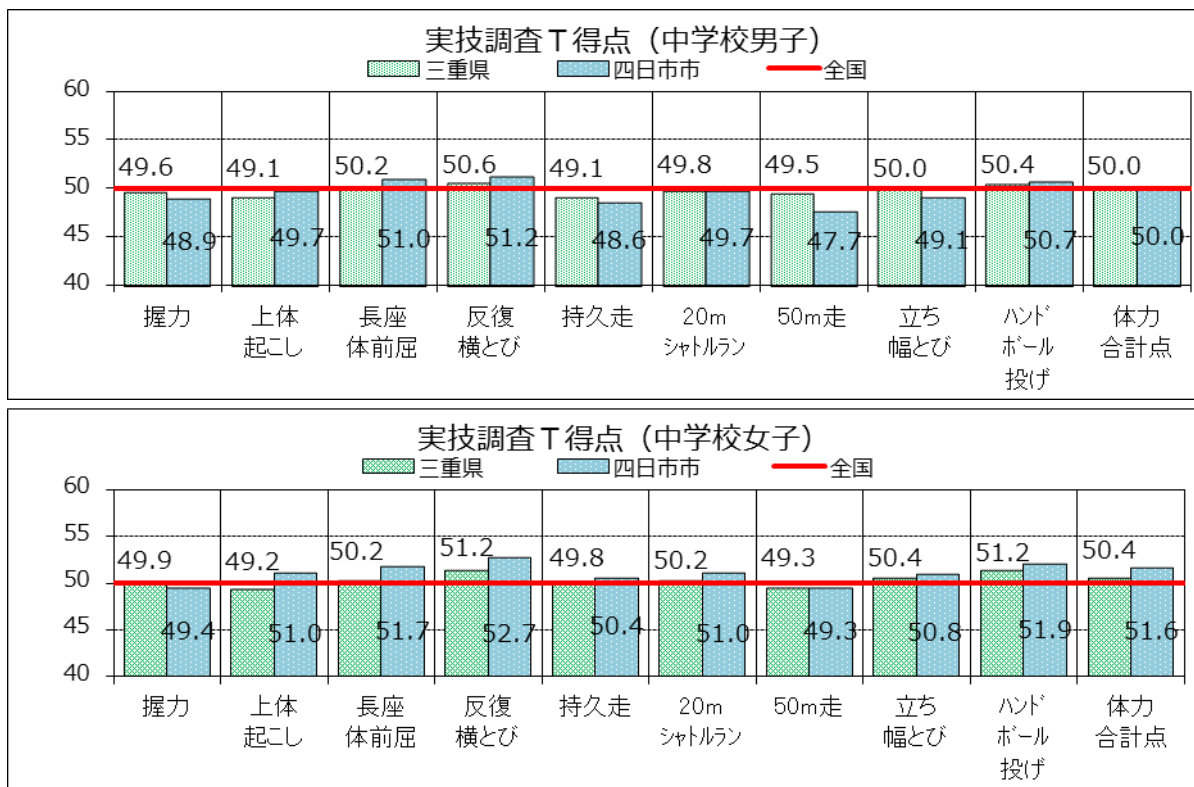
○中学校の状況

男子で総合評価A～Cの生徒の割合は72.7%(全国比プラス0.9ポイント)、女子では89.8%(全国比プラス2.3ポイント)となり、女子は上昇傾向にあります。

中学校では部活動が始まるため、運動時間が十分に確保されるようになったことが、運動技能向上の要因の一つになったと考えられます。



第1章 目指す子どもの姿
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方



中学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較
※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

種目別に見ると、中学校男子で全国平均値を上回っているのは、長座体前屈と反復横とび、ハンドボール投げの3種目です。長座体前屈と反復横とびは小・中学校とも全国平均値を上回っており、四日市の子どもが比較的得意とする種目といえます。

一方で持久走や50m走、シャトルランといった走力面では全国を大きく下回っています。走力の向上を図るために、各校における授業の工夫に加え、体幹を鍛える運動を取り入れていく方策が必要です。

中学校女子では、握力と50m走以外は全国を上回る結果となりました。今後も、さらに体力が高まるよう、各校における技能面の指導や運動の場の工夫を行うとともに、男子と同様、走力の向上を図る方策が必要です。

本市では平成29年3月に、小学校における体育の年間カリキュラムの例を示した「四日市版体育授業ガイドブック」を作成し、各校に配布しました。

今後も、各教員の得手不得手に影響されることなく、学年ごとに段階を経て、体力と運動技術が向上するように工夫していく必要があります。

② 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣

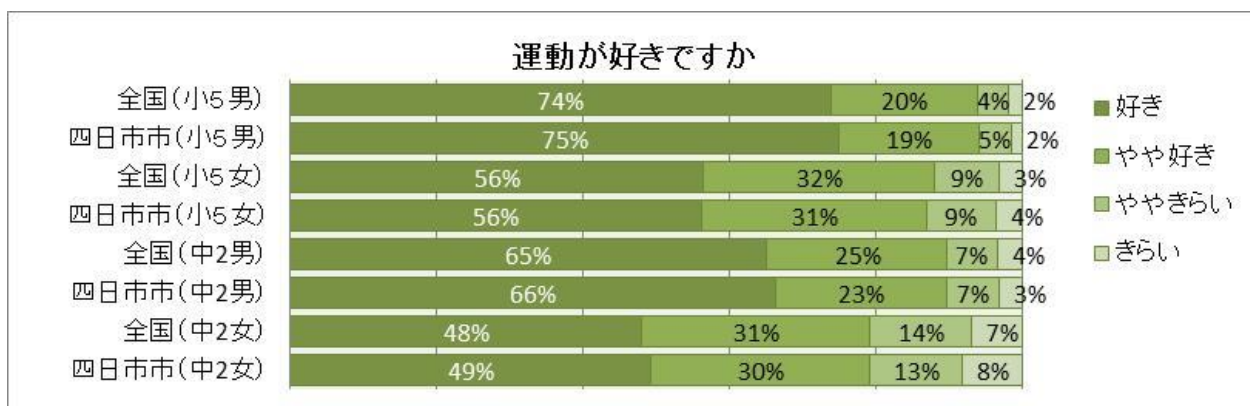
成果指標			現状値 [※]	H28	H29	H30	H31	H31	目標
②	「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」において、「好き」と回答をした児童生徒の割合（％）	小	男子75.0 (全国74.0)	71.3 (73.0)					80
			女子56.3 (全国56.4)	54.2 (56.7)					60
		中	男子66.3 (全国65.0)	65.3 (63.6)					70
			女子49.3 (全国48.0)	50.0 (46.9)					53

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」において、「好き」と回答をした児童生徒の割合は、小学校男子・女子、中学校男子・女子ともに、ほぼ全国並みの値を示していますが、前年比で見ると、小学校男子で前年比マイナス3.7%、小学校女子でマイナス2.1%など、全体的に下回っています。

今年度の結果を見ると、依然として、学年が上がるに従って「好き」と回答する割合が減っています。これは、運動の内容がより専門的になり、できる・できないが分かれるためだと考えられます。

発達段階に応じた運動習慣を身に付けさせる観点からは、「できた」という達成感を持たせることに加え、学年が上がるに従って、工夫しながら運動をすることの楽しさを味わえるような機会の充実が必要です。



③ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

成果指標			現状値 [※]	H28	H29	H30	H31	H31	目標
③	「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値（％）	小	89.2 (全国88.7)	89.8 (88.8)					93
		中	86.0 (全国86.9)	86.8 (86.9)					90

※現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国体力・運動能力、運動習慣等調査質問項目「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値を指標とし、小学校において93%、中学校において90%を目標値に設定しています。

本市の子どもたちの傾向として、朝食を毎日食べている割合は全国比と比べて高くなっているものの、毎日同じくらいの時刻に寝起きする生活の規則性では、全国より低い値を示しています。

本市では、リーフレット「四日市市の子どもたちの学力・学習状況や生活状況は？」を全保護者に毎年配付して、生活習慣が一定である児童・生徒ほど学力が高いことを示しています。今後も家庭との連携を図って、生活習慣の確立に向けた啓発を行っていきます。

